

提 言

一般社団法人 大学女性協会
会長 長谷川瑞穂

(一社)大学女性協会では2018年度から2023年度まで、「教育・ジェンダー・共生」をテーマにシンポジウムやセミナーを開催してきました。2022年の公開シンポジウムは「ユースの視点から見直そう これからの日本」をタイトルに掲げて開催しましたところ、「生きづらさ」という言葉がキーワードとして浮上しました。それらの課題を追及すべく、3年を超えて長期にわたったコロナ禍が、特にユースの方々の生活にどのような影響を及ぼしたか、また私たちNGOにできることは何かを模索することを趣旨に、2023年度に「ケアしあう希望ある社会を目指して～ユースの生きづらさを探る～」アンケートおよびインタビュー調査を実施しました。

当協会の調査結果に基づき、社会の変動に即対応した政策の見直しをさらに進めていただきたく、下記の通りの提言をいたします。

1. 教育機関内における相談システムの在り方を見直し、ユースが気軽に相談できる体制を作る
2. 授業料無償化の政策や奨学金制度における給付制への移行を加速し、経済的背景に関係なく、誰もが教育を受けることができる仕組みづくりを進める
3. 自立した個人を形成する市民教育、特に考えや意見を政策の場につなげる姿勢を培う主権者教育の徹底を図る
4. ユースが社会へ繋がっていくことのできるきっかけ作りとして、世代を超えた対話の機会や場の設定を多くし、「ケアしあう社会づくり」を進める